



# 「チーム池畑」一丸で

今年の茨城国体では、優勝した成年男子96キ級の下原卓朗(明桜館高教)ら、5人の選手が入賞を果たした。鹿児島国体でも得点源として期待されている。

選手たちの拠点は薩摩川内市入来だ。アトラン

タ、シドニーの両五輪で連続入賞した池畑大さんが、引退後に自らの自動車整備工場敷地内に整備した練習場で、多くの後輩たちを指導してきた。

今年6月には近くの入来総合運動場体育館に新しい練習・競技施設が完

成した。来年の会場にもなる。茨城国体の成年男子61キ級で6位入賞した脇田勇平(県体協)は「最高の環境で練習できている。来年はいい成績を残して地元に戻しを」と強い決意を見せる。

脇田は薩摩中央高で競技を始め、今年3月に大学を卒業。帰郷して池畑さんの指導で技術を磨き、自己ベストを更新した。「まだまだ記録は伸ばせる」と目標は高い。

下原卓朗の兄、成年男子81キ級の下原玄大(池畑モーターズ)も茨城国

体で7位入賞。「チーム池畑」の大黒柱でもある兄弟は、集大成として地元開催の国体に臨む。女子は県勢として初めて3選手が茨城国体に出場。59キ級の新垣愛恵、

55キ級の小関優芽が入賞した。だが、けがや緊張で思い通りの結果だったとはいえ、小関は悔し涙を流した。

伊東智人監督(薩摩中央高教)は「茨城の結果で満足している選手はほとんどいない。来年はもっといい結果を残せる」と話している。

## 競技豆知識

バーベルを一気に頭上まで持ち上げるスナッチと、いったん肩の上に置いてから頭上に上げるジャークの2種目。3回ずつ試技があり、成功した重さの合計で競う。体重別の階級に分かれ、スナッチ、ジャーク、2種目を合計したトータル計3種目。国体は成年と少年の男子だけだったが、2016年の岩手大会から女子が加わった。

新しい練習場で汗を流す下原玄大と(中央)と脇田勇平(薩摩川内市)の入来総合運動場体育館

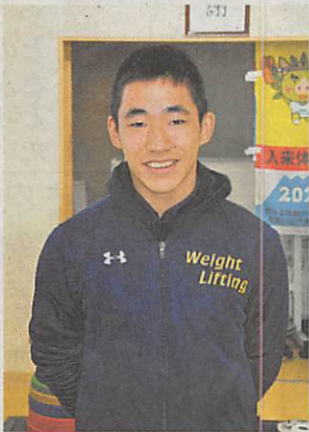


# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年11月27日（水） 南日本新聞

本校ウエイトリフティング部の益翔瑛選手・伊東智人教諭・OBの脇田勇平さんのコメントが南日本新聞に掲載されましたので紹介します。



薩摩中央高2年

益 翔瑛(17)

練習の分だけ  
記録が伸びる

高校入学後、先輩に誘われ重量挙げを始めた。東郷中時代はバスケットボール部。最初は20kgのバーを持ち上げるのにも苦労した。

「普段の練習はきついが、やればやっただけはずきりと記録が伸びるのが楽しい」。練習を積み、今年は55kg級で、南部九州高校総体、茨城国体と初めて全国に挑んだ。

「会場の雰囲気緊張してしまった」と振り返りつつ、「満足できる記録ではないが手応えも感じた。自分には伸びしろしかない。来年はいい結果を残す」と意気込む。